

うつのみや 婦防だより

第78号

発行日 令和8年3月
編集・発行 宇都宮女性防火クラブ連合会
(事務局：宇都宮市消防局予防課内)
〒320-0014
宇都宮市大曾2丁目2番21号
☎028-625-5505

急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし



令和8年消防出初式分列行進
令和8年1月4日(日) 大通り 二荒山神社前にて



宇都宮市マスコットキャラクター
「ミヤリー」

命を守るために
**住宅用火災警報器の
設置・維持管理を徹底
しましょう！**

宇都宮市消防局
公式 X(旧ツイッター)

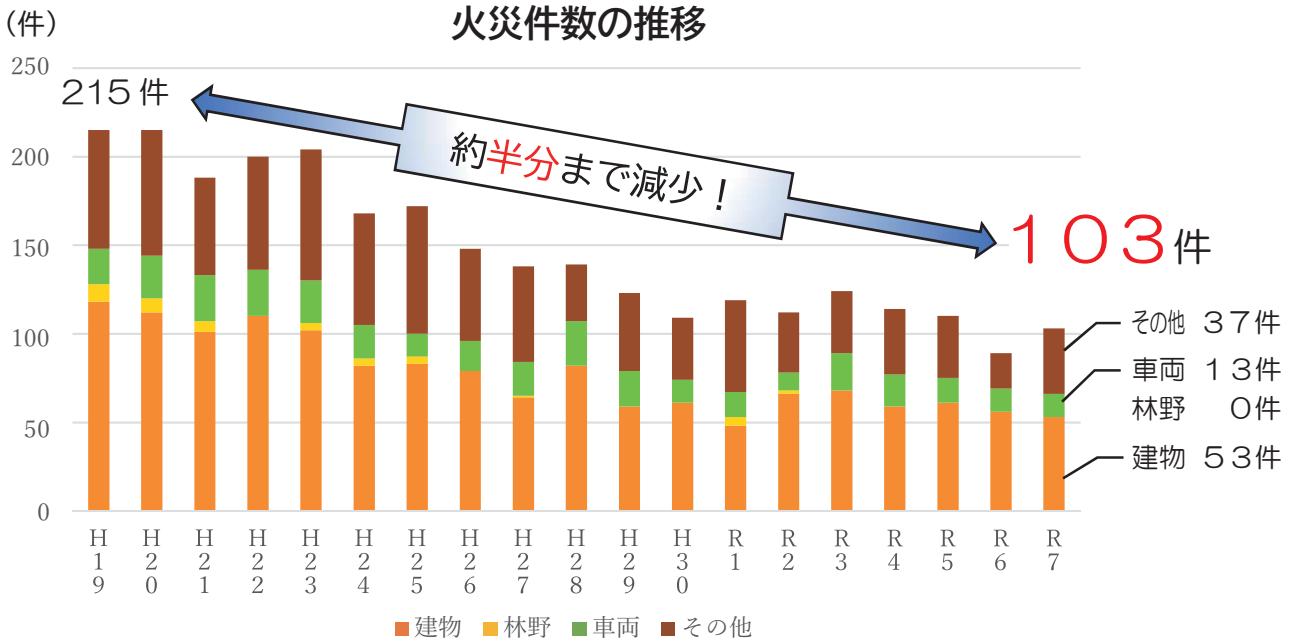


令和7年中の火災の状況

火災件数は103件

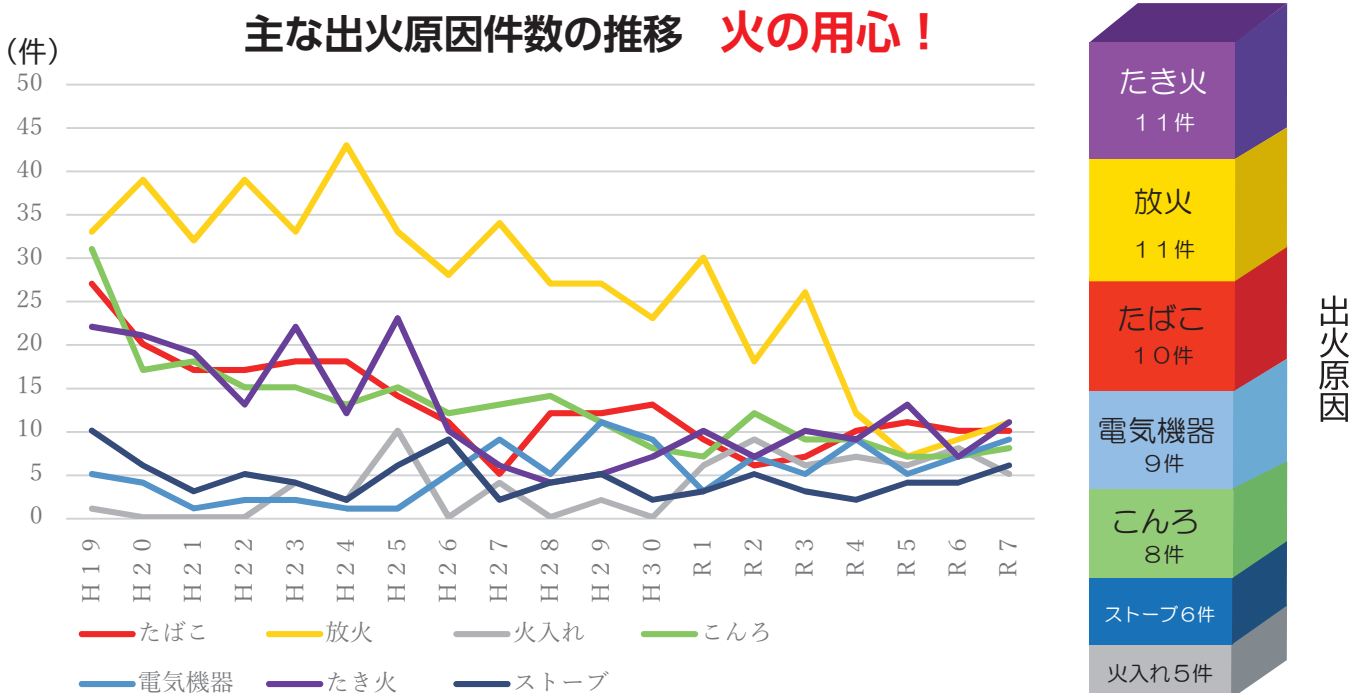
令和7年中の宇都宮市内における火災発生件数は、103件でした。

本市における平成19年の火災件数は215件でしたが、現在は当時の約半分の数にまで減少しています。



野外焼却による火災が多発

令和7年は野外焼却である「たき火」と「火入れ」による火災が合わせて16件発生しました。ごみの野外焼却は法律で禁止されています。害虫防除のための芝焼きについても、乾燥・強風などの気象状況においては火災危険が大きい行為となりますので十分注意しましょう。また、放火も11件発生しており、地域ぐるみで放火防止五か条を実践し、放火から地域を守りましょう。



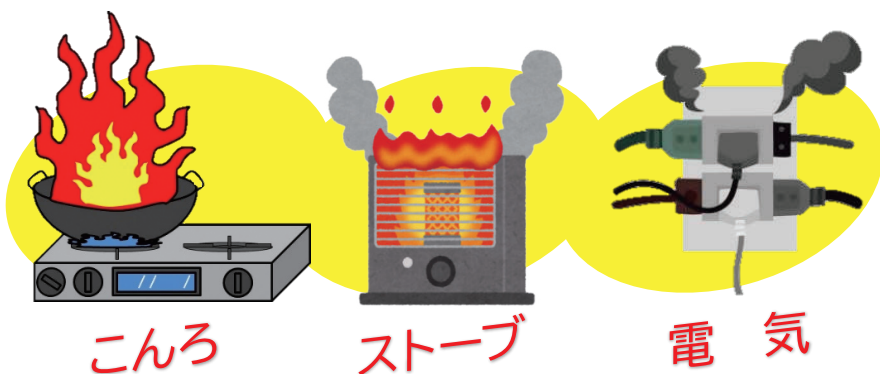
放火防止五か条



- ◆地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう！
- ◆家の周りには、燃えやすいものを置かないようにしましょう！
- ◆夜間、建物の周囲や駐車場は、照明を点灯して明るくしましょう！
- ◆車やバイクなどのボディカバーは、燃えにくいものを使いましょう！
- ◆車庫、物置にはカギをかけましょう！

■住宅火災は35件発生

令和7年は建物火災53件のうち35件が住宅火災であり、66%の割合を占めています。住宅火災で特に多い出火原因は「こんろ」、「ストーブ」、「電気機器」（電気機器や配線等から出火したもの）です。



【出火事例】

- ◆油を鍋に入れ、火をかけたままその場を離れたため出火した。
- ◆ストーブを燃焼させたまま、その場を離れたため、燃焼物がストーブに接触し、出火した。

今すぐできる火災予防の **ポイント**

【こんろ火災を防ぐ】



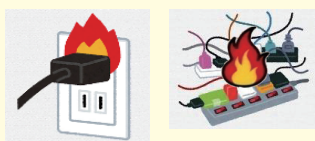
- ◆調理中にこんろから離れない
- ◆こんろ周りに燃えやすいものを置かない
- ◆こんろの上や奥にあるものを取りときは、火を消す
- ◆安全機能付きのこんろを使用する
- ◆防災品のエプロンやアームカバーを使用する

【ストーブ火災を防ぐ】



- ◆ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
- ◆外出時、就寝時は必ず火を消す
- ◆ストーブの近くで洗濯物を乾かさない
- ◆給油するときは必ず火を消す
- ◆給油後は、蓋がきちんと閉まっていることを必ず確認する

【電気火災を防ぐ】



- ◆使っていないプラグは抜いておく
- ◆プラグ、コンセントは定期的に掃除する
- ◆電源タップは決められた容量内で使用する
- ◆電源コードは束ねて使用しない
- ◆電源コードは家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する

住宅防火 いのちを守る **10** のポイント

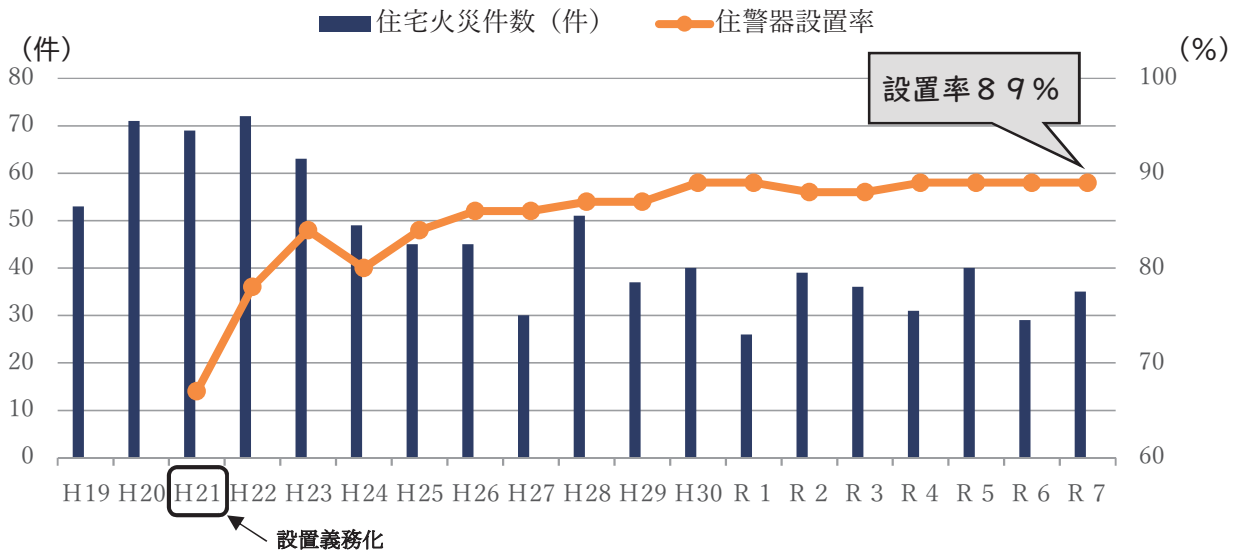
・ 4つの習慣 ・ 6つの対策 ・ 宇都宮市消防局ホームページ



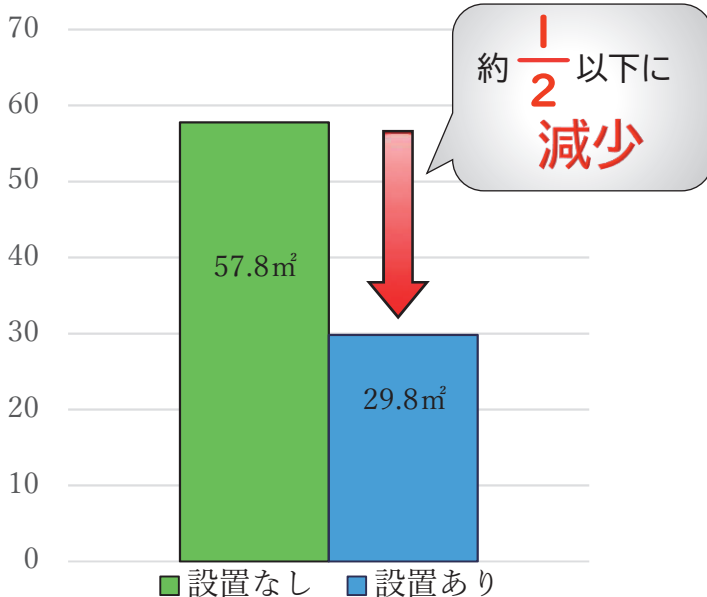
住宅用火災警報器の設置による効果

住宅火災件数と住宅用火災警報器設置率の関係

宇都宮市内の住宅火災件数と住宅用火災警報器設置率の関係をグラフにまとめると、以下のとおりとなりました。



焼損面積の比較
住宅火災1件あたりの平均値 (過去10年間)



設置場所
出典：総務省消防庁ホームページ

階段	寝室	居室
階段	居室	居室

☆すべての寝室
☆階段 (寝室が2階にある場合)
※台所にも設置するとより効果的です!

奏功事例

家族5人が在宅中に1階寝室から出火し、家族全員が住宅用火災警報器の警報音に気づき、水バケツで消火することができた。

住宅用火災警報器は、「電子部品の寿命」や「電池切れ」により、火災を感知しないことがあります。設置から「10年」を目安に交換しましょう。

点検方法は [こちら](#) →

宇都宮市消防局ホームページ





令和7年度 宇都宮女性防火クラブ連合会事業報告

■ 総 会 令和7年5月23日(金)

宇都宮市東消防署において、当会の顧問をはじめ多数の方々のご出席をいただき開催しました。今年度は役員の変更が行われ、新体制が次のように決定しました。

【宇都宮女性防火クラブ連合会 四役】

会 長 原 玲子 (錦)

副会長 塚田せつ子 (昭 和) 副会長 佐藤 幸子 (今 泉)

会 計 松本 友子 (築 瀬) 会 計 尾島 高子 (陽 東)

書 記 中臣 敦子 (桜) 書 記 寺西 芳子 (平 石)

監 事 神内 桂子 (国 本) 監 事 遠藤 孝子 (雀 宮)

顧 問 岡田 好枝 (前会長・横 川)

《退任》 蕪木カツイ (前顧問・泉が丘)

山口 佳代 (前副会長・姿 川) 磯田ゆたか (前書記・陽 南)



なお、退任されました蕪木前顧問と連合会役員の磯田ゆたか様(陽南)赤羽雅子様(篠井)には、感謝状が贈られました。

■ 普通救命講習 令和7年7月各週土曜日

応急手当の普及啓発活動として、クラブ員を対象とした普通救命講習会を開催しました。総勢89名が受講し、心肺蘇生法やAEDの取り扱いを学び、受講後は全員に修了証が交付されました。



■ 役員管外視察研修 令和7年7月31日(木)

群馬県桐生市 独立行政法人製品評価技術基盤機構燃焼技術センターにおいて、役員管外視察研修を行いました。研修では、製品火災事例についての講義を受講し、モバイルバッテリーなど身近な製品に潜む火災危険と事故の予防について学びました。



■ 消防学校一日入校 令和7年9月27日(土)

中里町 栃木県消防学校において、消防学校一日入校を開催しました。クラブ員143名が参加し、初期消火や結索・水防工法などの実践的な体験を通して、防火・防災の知識や技術を楽しみながら習得することができました。



■ 消火競技会 令和7年11月18日(火)

宇都宮自衛消防協会及び宇都宮危険物保安協会との合同で開催しました。各地区クラブの代表者が競技に参加し、消火器を用いた消火技術を競いました。



【競技結果】

- | | | |
|-----|----------------|----------------|
| 第1位 | 戸祭地区女性防火クラブ | 高崎 莊子・狐塚由佳子チーム |
| 第2位 | 陽南地区婦人防火クラブ | 本山 眞澄・豊田真紀子チーム |
| 第3位 | 富屋地区女性防火クラブ | 岡本真由美・松英 都チーム |
| 第4位 | 横川地区女性防火クラブ | 戸崎 信恵・荒井 有夏チーム |
| 第5位 | 細谷上戸祭地区女性防火クラブ | 岩上 滝・池田 憲子チーム |



■ 防火広報

令和7年11月10日(月)～14日(金)

令和8年2月16日(月)～20日(金)

秋季・春季全国火災予防運動の一環として、市内各地区のクラブ員が、区内を回り、地域住民に火災予防と住宅用火災警報器の設置、維持管理について広報活動を実施しました。



■ 研修事業 令和7年11月28日(金)

各地区クラブの人材育成と資質向上を図ることを目的として、日本ガス石油機器工業会の講師による防火講話と今年度新たに導入したAR技術を使用した訓練資器材を用いた研修会を開催しました。

講話では、身近にある石油機器の事故事例と安全・安心な使い方を学び、AR技術を使用した訓練資器材での研修では、消火体験と煙体験を行いました。



■ 防火作品

クラブ員の防火思想の高揚を目的として防火標語などの作品の募集を行いました。今年度は109点の作品の応募があり、厳正なる審査の結果、下記の20点を入選作品として決定しました。



令和7年度 入選作品

○ 寝る前に 一日最後の 火の確認	泉が丘地区	松 井 由美子
○ AIに 使い方聞く 消火器の	泉が丘地区	蕪 木 カツイ
○ 心の輪 防火防災 宇都宮	国本地区	三 瓶 陸 子
○ ガスコンロ 少しの油断が 命とり	桜 地 区	石 川 千 恵
○ ミヤクミヤクと 伝えよう 防火・防災の心意気	昭和地区	塚 田 せつ子
○ 便利なスマホ モバイルバッテリーにも 気配りを	雀宮地区	小 島 美知子
○ 幼子と 声高らかに 火の用心	雀宮地区	遠 藤 孝 子
○ 火を防ぐ 未来へつなぐ 第一歩	宝木地区	須 藤 克 子
○ 火の用心 優しい響きと 強い意志	宝木地区	伊 藤 典 子
○ 調理中 スマホに夢中で 火に油	宝木地区	町 田 真 弓
○ 消したつもり つもりが火の元 気をつけて	中央地区	熊 代 智 江
○ 火の用心 気かけ声かけ 心がけ	戸祭地区	上 野 真 弓
○ 真夏日に 車に忘れた携帯電話が 火事起こす	豊郷地区	綱 河 和 子
○ まめに点検 たこ足配線 火の用心	横川地区	篠 崎 キミイ
○ 思いこみ 心の油断が 火事の元	横川地区	深 谷 陽 子
○ 防災グッズ 点検見直し もう一度!	河内地区	吉 田 恵美子
○ 消したっけ? たぶん大事は 無しにすっぺ	河内地区	大 森 ふみ子
○ コンセント ちりもつもれば 火事の元	河内地区	田 中 富美子
○ 心がけ 火種を出すまい 我家から	河内地区	末 永 千代子
○ 念には念 未来を細ぐ 火の用心	河内地区	福 田 千 秋

特集 役員管外視察研修

《独立行政法人 製品評価技術基盤機構燃焼技術センター(NITE)に行ってきました!》

◆どんな施設？

⇒ 高度な燃焼実験施設と大型燃焼施設を備えており、製品火災事例に関する情報を調査、分析し、再発防止やリスクの低い製品開発にむけて必要な情報を発信している施設です。



◆視察研修の目的は？

⇒ 身の回りにある様々な製品火災事例を学び、家庭における防火意識の高揚と火災予防の啓発に努めることです。



◆研修内容は？

⇒ 身近にある製品火災事例についての講義を受けたほか、「断線したコードからの出火・調理用油からの出火・カセットボンベからの出火」の再現実験を見学し、製品の取扱いの重要性を学びました。近年では、リチウムイオン電池を内蔵したモバイルバッテリーの発火事例も多く、取り扱いには十分注意が必要であることを学びました。



◆女性防火クラブ ワンポイントアドバイス!



可燃性の電解液



可燃性のガス



膨張



出典：NITE ホームページ



モバイルバッテリーはリチウムイオン電池を使用していることが一般的です。このリチウムイオン電池には可燃性の電解液が含まれており、過充電により電池内部で化学反応が起こり可燃性ガスが発生します。その結果、リチウムイオン電池が膨張し、最悪の場合発火する可能性があります。また、強い衝撃により電池が破損するとショートを起こし、出火する可能性もあります。

火災予防対策として

1. PSEマークの付いた製品を購入する
2. 衝撃を与えない、分解しない
3. 指定された充電器を使用する
4. 発熱や膨張などの異常がある場合は使用しない
5. 車内など熱のこもりやすい場所での使用は控える
6. 燃えやすい物の近くで充電しない

女性防火クラブ員 募集中!!

女性防火クラブは、家庭での防火意識を高め、住宅からの火災を減少させることを目的に日々活動しています。大切な家族や地域の方の命を守るため「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いのもと、火災や災害に強い安全なまちづくりに向け、一緒に楽しみながら活動しませんか？

興味のある方は、事務局（消防局予防課：028-625-5505）までご連絡下さい。

宇都宮市消防局ホームページ⇒





御幸ヶ原地区女性防火クラブ

会長 阿部 由美

御幸ヶ原地区は、宇都宮市の北東に位置し、商業施設や病院、銀行などもある住宅地です。

地区は8自治会で構成されており、そのうち女性防火クラブは各自治会から選出された代表計14名が様々な行事に携わっています。行事への参加は、毎年偏りがないように廻り番制にして、女性防火クラブのすべての行事に参加しています。

御幸ヶ原地区の主な行事は、納涼盆踊り・敬老会・体育祭・防災訓練・地域まつりなどをやっていますが、防災訓練におきましては、東消防署・消防団第7分団の方々のご協力をいただき、いざという時の対応や、水消火器の使い方などを学んでいます。中でも、消防隊員による梯子車の放水訓練は圧巻です。そのほか、地区防災会とともに、バケツリレーでの消火訓練など、子どもも大人も楽しみながら体験をしています。地域祭りでは、非常食を一口大のおにぎりにして、試食として提供し、非常食を常備することを薦めています。また、毎年3月の第一土曜日には、夜回りを実施しています。時間をかけて拍子木を叩きながら「火の用心」の掛け声とともに、自分たちの地域を廻るとい活動です。活動を通して、地区の安全・安心を微力ながら支えていければと思っております。



城山地区婦人防火クラブ

会長 小林 恵子

宇都宮の西に広がる城山地区は、古賀志山、多気山、戸室山の城山三山と呼ばれている山々が立ち並び、春には城山西小学校での孝子桜、秋には森林公園でアジア最大級の自転車レース「ジャパンカップロードレース」が開催され、観光資源では、大谷石で広く知られている大谷観音、資料館、大谷寺、多気不動尊など、県内外から多くの人々が訪れ賑わっています。

城山地区婦人防火クラブは、各自治会から選出された会員で活動しています。例年の炊き出し訓練では、カレー、けんちん汁、ポテトサラダ等を作り皆で試食してきましたが、今回は会員さんの参加人数が少なかったため、「パッククッキング」を行いました。ご飯、肉じゃが、ホットケーキの材料を、それぞれの袋に入れて湯沸調理をしました。ちょっと心配でしたが、思った以上の出来で安心しました。地区の防災訓練は、以前の規模のように豚汁300食を作るようには戻りませんが、給食（アルファ米）給水の配布を担当し、訓練にも参加します。会場には、防災用テント、簡易トイレの展示をし、使い方の説明やパンフレットを配ったりします。文化祭では、婦人防火クラブの活動を皆さんに知ってほしいと、拡大した写真やイラスト、地元の避難所の地図などをボードに貼り分かりやすく紹介しています。その他、食の一端として気軽に食べられる物を会員の皆さんで作って販売し、その売上を活動費の一部としています。年間を通して様々な活動がありますが、会員の皆さんの協力のもと、災害への対応を高め、住民同士の助け合いを深めていきたいと思っております。



※ 次回の寄稿予定は、御幸地区と城東地区になります。